

開講期	2026年度前期、2026年度後期			単位数	4.0単位
科目[授業]名	3013 学生自主企画ゼミナルB			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	許可			定員	
履修可能学年	2年/3年/4年	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	木曜4限				
教室	G213教室				
代表教員	制野 俊弘				
担当教員	制野 俊弘				
テーマと到達目標	<p>【テーマ】消えかけた町は、どう未来を創るのか？ 大熊町から学ぶ、地域再生</p> <p>【到達目標】</p> <p>基礎レベル 大熊町の基本的な情報（歴史、地理、人口等）を理解している</p> <p>応用レベル フィールドワークで得た情報を整理し、分析できる</p> <p>発展レベル 調査結果に基づいて独自の考察を加え、報告書として表現できる</p>				
概要	<p>福島県に大熊町という小さな町があります。人口約1万人のこの町は、2011年3月11日を境に、住民ゼロとなりました。この町では今、様々な挑戦が続いています。児童が数名しかいない学校をどう運営するのか。「帰還困難区域があった町」にあえて移住を決めた人々の選択。目に見えない放射能と、どう向き合い続けるのか。バラバラになった住民が守る祭りには、どんな思いが込められているのか。これらは、東京でニュースを見ているだけでは決して見えてこない物語です。本講義では、教室での学びに加え、夏季休暇中に実際に町を訪れ、住民や移住者の声を直接聞き、現場を自分の目で見る、大熊町へのフィールドワークを実施します。</p>				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション			制野俊弘	対面授業
第2回	90分でわかる！大熊町ができるまで！			制野俊弘	対面授業
第3回	エネルギーの町として栄えた大熊、人口1万人への軌跡			制野俊弘	対面授業
第4回	2011年3月11日。あの日、何が起きたのか。住民も町も"ゼロ"に			制野俊弘	対面授業
第5回	人々は今どこに？ 散り散りになった1万人の物語			制野俊弘	対面授業
第6回	ゼロから始まった町の再建			制野俊弘	対面授業
第7回	帰還、そして新しい住民。未来への設計図、復興計画6柱			制野俊弘	対面授業
第8回	ここに来た理由、帰らない理由、帰れない理由			制野俊弘	対面授業
第9回	日本最大のゴミ置き場？ 中間貯蔵施設の真相			制野俊弘	対面授業
第10回	教育最前線！子どもたちの未来をどう創るか			制野俊弘	対面授業
第11回	働く場所がない町で、どう仕事を作るのか			制野俊弘	対面授業
第12回	福島産という呪いと闘う農家たち、農業再生最前線			制野俊弘	対面授業
第13回	バラバラでも絶やさない、祭りに込めた思い			制野俊弘	対面授業
第14回	FW直前準備！現地で何を見る？誰に会う？リスト作成			制野俊弘	対面授業
第15回	FW完全マニュアル！持ち物・心構え・絶対やるべきこと			制野俊弘	対面授業
第16回	FW報告会①～それぞれが見てきたもの～			制野俊弘	対面授業
第17回	FW報告会②～気づきと疑問を共有する～			制野俊弘	対面授業
第18回	調査報告書とは？ タイトル・目次を考える			制野俊弘	対面授業
第19回	テーマ設定 問いと仮タイトルを決める			制野俊弘	対面授業
第20回	目次構成 章立てを考える 報告書の設計図作り			制野俊弘	対面授業
第21回	執筆① 追加調査・文献を読む			制野俊弘	対面授業

第22回	執筆② 自分の考えを言語化しよう	制野俊弘	対面授業
第23回	執筆③	制野俊弘	対面授業
第24回	中間報告	制野俊弘	対面授業
第25回	執筆④	制野俊弘	対面授業
第26回	執筆⑤	制野俊弘	対面授業
第27回	執筆⑥	制野俊弘	対面授業
第28回	執筆⑦	制野俊弘	対面授業
第29回	編集作業 校正・引用・文献表記	制野俊弘	対面授業
第30回	事後作業――調査対象者へのお礼／発送	制野俊弘	対面授業
成績評価の基準	<p>① コメントペーパー 指定する回の授業後に提出する手書きのコメントペーパー。</p> <p>② 平常点（出席・授業参加） 授業への出席状況と、課題提出への姿勢を評価する。</p> <p>③ フィールドワーク 大熊町での現地訪問への参加。やむを得ない事情で参加できない場合は、代替課題を用意する。</p> <p>④ 最終課題（調査報告書） フィールドワークでの学びを踏まえた調査報告書の執筆。テーマ設定、調査内容、考察の深さ、文章表現を総合的に評価する。</p>		
履修にあたっての留意事項	<p>授業計画について 上記の授業計画はあくまで予定です。受講生の皆さんの希望や関心に応じて、柔軟に変更していきます。</p> <p>連絡・課題について LINEオープンチャットで授業資料や課題を配布し、特定のGoogle formからでのみ質問を受け付けます。スマホまたはパソコンでLINE、Google formでの課題提出が行える環境を整えておいてください。</p> <p>フィールドワークについて 夏季休暇中に福島県大熊町へのフィールドワーク（FW）を予定しています。詳細は配布する資料で確認してください。やむを得ない事情で参加できない場合は、代替課題を用意します。</p> <p>代替課題について FWに参加できなかった学生は代替課題と住民へのオンラインインタビューに絶対参加とする。 ※オンラインインタビューはFW参加者でも参加できます。</p>		
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細			
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件			

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	授業内で指示します。		
教科書		教科書(ISBN)	
参考文献	授業内で指示します。	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>		
--------------------	---	--	--